

# 高麗広の夏

2011年8月2日～8月10日

## 「サマーキャンプ伊勢 2011」報告書



主催：サマーキャンプ伊勢 2011 実行委員会  
後援：伊勢市 伊勢市教育委員会



## はじめに

福島第一原子力発電所の事故の影響で高放射線量の中での生活を強いられている福島県の方々。中でも最も放射線の影響を受けやすい子供達を少しでも放射線から離れて、大自然の中でのびのびと過ごしていただきたいと思い、「サマーキャンプ伊勢 2011」を計画いたしました。

気持ちはたくさんあったものの資金の目途も全くない状況の中、手探りで始めた企画だったのですが、予想を遥かに上回る多大なご援助、ご支援をいただき、感謝に絶えません。皆様の気持ちの暖かさ、熱さを痛感させられました。本当にありがとうございました。

厚く御礼申し上げますとともに、皆様のご支援がどのように活かされたかをご報告させていただきます。

サマーキャンプ伊勢実行委員会代表 中村 ミキ



## 目 次

はじめに	p 1
サマーキャンプ伊勢 2011 全日程	p 2
実行委員会発足から	p 3
キャンプが始まって	p 3
マダニ感染症とリスク管理	p 4
3・11 についてお母さん方にインタビュー	p 5
キャンプ参加者の感想	p 12
スタッフの想い	p 14
収支内訳・支援内訳	p 18
サマーキャンプ実行委員と事前登録ボランティア	p 18
ご支援頂きました企業/個人様の一覧	p 19
お礼とご挨拶	p 20

## サマーキャンプ伊勢 2011 全日程 (企業名敬称は略させていただきます)

- 8/2 (火) 夕方伊勢に到着  
ミタスの湯で入浴後、高麗広へ
- 8/3 (水) 自己紹介、キャンプの日程説明  
午後より子ども達は整理箱づくり  
夜、歓迎パーティー、  
大道芸人 加藤みきおさんのパフォーマンス
- 8/4 (木) 伊勢神宮内宮参拝 二光堂で伊勢うどん  
赤福で赤福氷 おかげ座 観劇  
五十鈴川で川遊び 錦水湯で入浴  
加藤先生の健康講座  
夜、クリスタルヒーリングの海響さんのパフォーマンスとヒーリング
- 8/5 (金) 伊勢国際観光のミニバスで二見シーパラダイス観光 ミタスの湯 お弁当は八百正
- 8/6 (土) 朝はワークショップ 谷久美子さんのパワーストーン作り  
坂本照子さんのスライムづくり  
市橋さんの鳥の鳴き声工作 中村ミキ書道フリースタイル  
夜バーベキュー大会 高麗広ライブ出演 良い土、富山喜子、ネギロック、rook
- 8/7 (日) 林業体験(間伐) 笑いヨガ ミタスの湯
- 8/8 (月) 福島伊勢交流会、くるくるレインボウ  
高柳商店街より千羽鶴と絆の寄せ書き授与式  
流しそうめん  
緑と海の合唱団によるゲームと歌での子供交流会  
夜ライブ せんざきあやの 梶田イフ
- 8/9 (火) 伊勢国際観光のミニバスで鳥羽観光 観光船で鳥羽湾周遊  
鳥羽水族館見学 ミタスの湯 さよならパーティー
- 8/10(水) 朝、福島へ帰郷



## 実行委員会発足から

6月下旬にサマーキャンプ伊勢 2011 実行委員会が発足いたしました。

7月1日に伊勢シティプラザにて福島県飯舘村出身で原発事故により三重県伊賀市に避難されている村上真平さんの講演会を企画いたしました。それがご縁で、村上さんにご相談した結果、村上さんの出身地である飯舘村の小学校のみなさんをご招待することになりました。ところが、7月20日になっても飯舘村からの参加者申込者は0名ということが判明し、キャンプ開始まで後10日という時点で参加者探しを一から始めなければなりませんでした。

インターネットと村上さんの知人関係を当たり、先着順で募集をしたところ、今度は、あっという間に参加枠が埋まってしまいました。結果的に宮城県名取市、福島県南相馬市、福島市、郡山市、いわき市、と福島県東部の様々な地域から参加していただくことになりました。また、茨城県から津市に避難中の方、村上さんご家族も参加し総勢子ども20名、大人8名の30名近い参加者となりました。

参加者同士もほぼ全員初対面でした。みなさんで新幹線で合流し（一部の方は自家用車利用）で名古屋から快速みえに乗り継ぎ、8月2日午後4時に伊勢市駅にてお迎えいたしました。

## キャンプが始まって

キャンプの雰囲気はとてもよくて、みなさんいつもにこやかで和気あいあいと過ごせたと思います。最初の2日間、毎日泣いていたお子さんがおりました。一時は「途中で帰りたい」と言い出し、両親と電話で協議しましたが、最終的に自分で決断してからはすっかり元気にうちとけておりました。



毎日、たくさんのイベントがあり、沢山の方が訪れてくださいました。野菜や果物や食糧の差し入れもいただき、とても豊かな食生活が送れました。

食事班の腕前は特筆すべきもので、野菜を中心としたとてもおいしい料理をいただきました。おいしい食事がこのキャンプの参加者の心をつなぐ大きな力となっていたと思います。

みなさんの健康状態はおおむね良好でした。一人のお子様が熱中症になり、病院で点滴を受けました。入院の必要もなく、1日で回復しました。発熱した子供も他に1-2名いましたが、翌日には元気になっておりました。

8泊9日という長期間のキャンプで疲れないかと心配もしておりましたが、子ども達は最後までとても元気でした。2時間ものあいだ、ほぼ全員参加の枕投げ大会をしたり、庭に張ったテントで眠りました。

まるで大きな家族のように生活できて、参加者やスタッフの区別なく一緒に働き遊び、沢山の素晴らしい思い出を共有できて意義深いキャンプとなりました。キャンプが終わって、福島の子供達はまた、あの放射線の高い地域に戻って放射能との戦いの日々が待っているのかと思うと、楽しただけでは済まされない厳しい現実言葉に失います。今まで「福島の子供達」とひとくくりにしてきた抽象的な言葉から、「ちゃん」「くん」と言った人の名前（固有名詞）で呼ぶ関係が変わると、この子供だけがどうしてこんな目にあわなければならないのかと、とても辛い思いをかみ締めながら電車を見送りました。



## マダニ感染症とリスク管理

皆さんも福島にお帰りになり、これでキャンプも清算して今後の方針を決めるつもりでありましたが、とんでもない事件が起こりました。その件でキャンプの清算も出来ず、ご報告が遅れた事をお詫び申し上げますとともに、マダニ感染症についてご報告させていただきます。

キャンプ前に事前の注意事項として、スズメバチ、マムシ、ヒル、マダニなどのことを、地元高麗広の人からも受けてはありました。また、参加者にも図解入りで注意喚起の張り紙を館内に張り出しておりましたが、参加者のお子様の一名が福島に帰郷後、マダニによる感染症で入院する事態となってしまいました。野外活動で自然の中にはいるのですから虫に刺されたり、怪我をしたりの可能性はゼロにすることはできませんし、ある程度は不可抗力でもあろうかと考えたりもします。

それでもそれを差し引いても、ただでさえ放射能でデリケートな生活を送っていらっしゃる福島の子供さんをマダニ感染症で入院させてしまい非常に申し訳ない気持ちで一杯です。

マダニは日本紅斑熱という病気を媒介します。これは人から人には感染いたしません。病原菌を持ったマダニからのみ感染します。なぜこの病気がわかったかと申しますと、実行委員の富山より、伊勢の他の場所でキャンプをしていた知人(成人)が8月上旬にマダニにより日本紅斑熱を発症したという報告がありました。潜伏期間は3-8日間ということで、キャンプ参加者のみなさんにメールにて、子供さんの体にダニが付着していないかチェックしていただくよう、また熱が続いて発疹がでたらすぐに病院で検査していただくよう、注意喚起を促しました。すると参加者の一人の親御さんから伊勢から帰ってきたのち、子供の高熱が続き発疹もあるとの連絡がはいりました。メールにてマダニ感染症の詳しく載っているページのリンクを貼り、すぐ病院に行ってくださいとお願いしました。ダニの感染症の症例は年間でも全国で40-60例という非常にまれな病気であり、福島では寒冷地のせいかマダニはいないそうなのでお医者さんでもなかなかわからないようでありました。

そのお子さんは入院して抗生物質の投与を受けました。副代表の林からぜひ福島にお見舞いに行きたい、との申し出があり、実行委員会の上の了承を得て翌日福島に向かいました。結果的に抗生物質でお子さんは熱も下がり始めました。林はお見舞いの後、お子さんの御家族のご厚意で、福島の放射能汚染の現状や津波被害の現状を視察させていただき、非常に貴重な機会を得ました。ご両親には、こちらが多大なるご迷惑をおかけしたのにも関わらず、非常に寛大で好意的に処遇していただきました。その後、お子さんは程無く退院なさいます、現在は快方に向かっているということです。

後にわかった事では、伊勢志摩地方はマダニ感染症が特に多い地域だと言う事です。おかげさまでお子さんは無事に退院されたものの、リスク管理につきましては、交通事故、熱中症などいろいろなりリスクを想定して看護師の上野をはじめ緊急担当医といたしまして河口外科様をお願いしておりましたが、症状が軽かったとはいえ、熱中症のお子さんを出してしまったこととマダニの件につきましては、まだまだ不十分であったと猛省しております。また、今後のリスク管理についても再重要な課題となりました。

### 3・11についてお母さん方にインタビュー

キャンプ中は誰もが津波や原発事故のことについては大っぴらに触れることもありませんでしたし、むしろ、「そのこと」はあまり触れないようにしようという暗黙の了解のようなものがありました。むやみに口にして傷つく人がいるかもしれないので、それは当然の約束事項でもありました。

ある程度打ち解けてきた頃に、福島からのお母さん5人にあらためてインタビューを申し込みました。2時間のインタビューで、3月11日の当日はどこでどうしていたか、から始まり、福島の学校の様子について、今後、どういった支援が必要か、の3点を語っていただきました。2時間ではとても足りないくらい沢山語っていただきました。

録音ではなく、ノートから記憶をたどったので、間違っているところもあるかも知れませんが、お母さん5名とも泣きながら話してもらった貴重な記録です。ぜひお読みください。(文字起こし:林恵奈)

質問：地震の日の様子を教えてください（3月11日2時46分）

宮城県名取市Nさん：

そろそろ子どもが帰宅する時間と考えるとたら大地震。賃貸マンションがひび割れて住めない状態になる。一時避難で体育館へ。2日後に別のマンションへ避難。以前のマンションは半壊なのに半壊だと保証をしなくてはならないのを嫌がり一部破壊と言い張る大家に困っている。

いわき市Tさん：

携帯の地震警報が鳴った。すぐに地震が起きた。凄い揺れで室内が怖く揺れる中で階段を降りて外へ。子どもの姿を見つけて、自分のほうへ呼ぶ。直前まで子どもがいたところのブロック壁が倒れる。間一髪助かる。余震がある中で瓦などを寒いなか片付けていたら雪やヒョウが降る。地震でガス、水も止まる。凄く寒い。沢山の服を着込む。余震が続き、しばらく家族でヘルメットをしてごはんを食べたりしていた。

福島市KUさん：

友だちのマンションに遊びに来ていたときに地震が起きる。長い揺れ。近所の非常ベルが一斉に鳴るけたたましい中で、みんな道路に何時間もいた。怖くて室内に入れない。なんとか家に帰るも余震も震度5など大きい。速報がなりっぱなし。1週間ほど服とジャンパーを着たまま寝ていた。水がなく風呂も洗濯も出来ない。

飯舘村Mさん：

その日はいつもより1時間早く家を出て小学校へ子どもを向かえに行った。子どもの念願のスイミングスクールの初日だった。なぜか普段は持たない通帳や現金10万を持っていた。スイミング後に福島市内の友人宅。そろそろ帰ろうとするところに脱原発をしてる友人が訪ねてきた。その友人は1、2分で帰るつもりだったが、そのときに地震がきた。

友人の家が物で散乱する中で、テレビはついたので、地震情報を見ていた。自分の車は無事だったが、友人の車はブロックが倒れて壊れた。自分の子どもや友人の子どもが10人以上いた。布団を子どもたちに被せて、余震が続く中で、家が崩れないよう祈っていた。

夜9時頃。脱原発の友達が、パソコンですっと福島原発の様子を調べていたが、爆発するかもしれないと言われた。Mさんは、原発は良くないとなんとなくは思っていたが、詳しくは知らなかった。爆発？もしそうならいつ帰れる？と、訊くと、一生帰れないかも。もしチェルノブイリ級なら福島市は即死のようなものだ。と、反原発の友人に言われた。

郡山K さん：

子どもと3人でお昼寝をしていたが、そろそろ上の子どもが帰ってくると思い、みそ汁を温めていた。そこで地震がきた。上の娘のAちゃんが帰ってきた。一才の男の子をAちゃんに頼んでみんなマンション4階から1階へ。寒いから車の中へ。近所の方とどこへ行こうかと相談するが、近くに避難出来る場所がない。ガソリンを満タンにして、友人宅へミルクのお湯をもらいにゆき、そこでやっと実家と連絡が取れて猪苗代の実家へ避難。

質問：やっぱり恐ろしかったですか？ 津波被害はなかったですか？

みんな：(うなずきながら)怖かった。二回目の横揺れが長かった。

郡山K i さん：

津波について知らないでいた。地方の友人から「生きてるか？」と電話があった。

質問：みなさんのお友だちは大丈夫でしたか？

Nさん：

息子が子どもミュージカルに通っているが、その仲間のお母さんが二人お亡くなりになられた。

いわきTさん：

電気はついたので津波は知っていた。自分は子どもが地震を怖がるので、落ち着かせるのに必死だった。携帯の電話やメールはなかなか通じなかった。

Mさん：

12時に友人宅を出て、余震や地割れでなかなか帰れず、知り合いに道を教えてもらい夜中の3時に帰宅。ガソリンスタンドは渋滞で、千円しか入れてもらえないが、知り合いなので頼み込んで三千円入れてもらえた。

夫が家で死んでないか心配で、とにかく帰った。途中でコンビニへ行ったら何も無い。停電だから懐中電灯が欲しかったが、ロウソクもなく食料もない。ライターだけを買った。家が真っ暗なので、車のヘッドライトで家を照らしながら、夫を呼んだら元気に生きていた。夫に反原発の友人の意見を伝えて、とにかく避難をしようと持ちかけた。

友人はちりじりになり、まだ連絡とれない人が何人かいる。

名取市Nさん：

食料は冷凍食品やレトルト。数日後に1日2食にした。

質問：原発についてどのような意識がありました？

いわきTさん：

あまり良くないと思っていたが、中身はよく知らなかった。

郡山K i さん：

3日後にテレビをつけたら、原発のことばかり。頭の中は地震や津波や食料や水でいっぱいだから驚いた。近くのサッポロビールに水をもらっていた。冷凍食品を食べていた。冷蔵庫が止まったから。1日に2食にした。温かいものは食べれなかった。



いわきTさん：

湧水をもらいにゆき、食料はお米と味噌でおにぎりにしたり、インスタントラーメン。食器を洗わないでもいいものを食べた。1号基爆発で叔母(母の妹)が、避難するように言ってきたが、最初はピンとこなかったが、14日の午後に3号基も爆発して、とにかくいわきを離れようと思った。東京に4月5日までいたが、学校が始まるので戻った。

福島市KUさん：

食料の買い置きがあまりなく、米も半キロしかなく、店にパン、ラーメンない。お粥などにして食べていたが、業務用スーパーで働く友人に五キロ米をもらった。11日から14日まで家にいた。そのあとで静岡へ避難。

原発もあるけど、避難を決めた一番の理由は、水汲みがせつなくなってきたから。近所の方の地下水をもらいに行ってたが、何度ももらいに行くのも悪い。普段大量の水を使っていることが解った。頑張っって節水しても、みんな会社も学校も休みで家にいる。トイレの水も流せない。近所の方も水をもらいにいっている。井戸が湧れないか不安と申し訳なさ。どんどん切なくなってきた。

地震のときの友人はマンションの揺れが怖くて家(KUさん宅)に来ていた。その友人の友が、原発の情報をメールでくれた。地域から原発の情報はなかった。逆に3月何日から学校が再開するなどの情報があったが、それがのびのびになった。

飯館Mさん：

家族5人と研修生1人で山形へ二泊。山形でガソリンを入れた、娘のMちゃんが「ここを出よう」と泣いていた。原発爆発をニュースで観て、もう戻れないと思い、農業研修生を名古屋へ送り、両親に会うため静岡へ。その後岡山へいくつもりだった。

静岡にいたら、郡山Kiさんの母親から電話があり、Kiさんと子どもたちと親戚を15人くらい避難させたい。どこか受け入れ先はないかと、相談された。12日に知り合いみんなに避難を促していたので、頼られたのかもしれない。それで、夫の母校がある伊賀市の愛農学園へいくことになった。

結局、愛農は福島の方を入れ替わり立ち替わりながら、50人くらい受け入れた。Kiさん一家も1ヶ月半愛農で過ごした。Mさん夫婦が受け入れの責任者にされてしまい、岡山行きは無理になった。みんなで雑魚寝の生活。愛農に4月上旬に出てほしいと言われ、半数が福島へ帰った。あと半数は三重県や他所へ家を借りて移住をした。Kiさんも家を借りて住んだ。Mさんも家を借りようと三重県行政へ行ったが、なにも手配してくれなかった。(15日か16日の行政の対応)後から1、二軒の家を紹介してくれた程度だった。自分たちで探した家に住んだ。

郡山Kiさん：

猪苗代に月曜日の朝までいた。ダンナから電話で一旦戻り荷物をまとめるように指示される。夫の母親なども避難しにくるから、みんなで福島市の山の方のペンションに泊まり、新潟などへ避難を相談していたが、母がMさんを思い出して連絡を取り、5月2日まで三重県に避難をした。

GWに夫が会いに来て、やはり家族みんなで住みたくなった。子どもたちも帰りたいたいと言う。梅雨まで避難をしたほうが良いとMさんに言われたけど、耐えられなかった。夏休みは、新潟でアパートを借りている。

飯館Mさん：

家族がバラバラになって避難をしてる方は、前から原発を反対してる放射能への知識のある方でさえも、精神的に参ってしまい、福島へ戻る方もいる。私は家族一緒だからいいけど、そうじゃない方は辛いだろう。



質問：放射能について地元の対応は？

名取市Nさん：

宮城県知事は原発推進。放射能はないものと無視していたが、汚染問題がいろいろ出たので少し対応も始まった。周りは放射能に意識のない人が多いが、自分と同じ考えの人たちと水を買ったりしたが、当初はそんなに考えてなかった。日に日に怖くなってきた。宮城県も地産地消を推奨し、牛乳にヨウ素が出たけど、基準値以下だからと給食で飲ませている。グラウンドも基準値以下だから平気と言うが、心配だからマスクと長袖をさせている。

いわきTさん：

4月5日に戻ったら、スーパーに食品が戻っていた。出来るだけ遠方の野菜を買い、水もウォーターサーバーやミネラルウォーターにした。外出時はマスクをさせて、何ヶ月も外遊びは禁止していた。今はコンクリートの上なら遊んで良いことにしたが、時間は決めている。

いわき市長が安全宣言を出した。学校はプリントを配った。屋外活動をさせる。グラウンドは3.8マイクロ以下だから大丈夫と言われた。年20ミリ以下だから問題ない。給食も食べさせる。その後PTA総会があったので、本当にグラウンドに出していいか？と問いかけた。知り合いの弁護士に来てもらい、法律は年間1ミリと決まっている。3.8マイクロのグラウンドなら、1ミリを超えてしまう。チェルノブイリなら管理区域だ。医療用防塵マスクN95でもなくては内部被爆を防げない。など話してもらった。それで外の活動がなくなった。

でも2時間目と3時間目の間に20分の大休憩というのがあり、外に出たい子は出て遊んでいる。給食は栄養士さんが、1学期は遠方の食材にしてくれた。青森や海外など。しかし牛乳は福島産。飲む人と飲まない人に別れる。Tさんは飲ませない。

生活は、原発講演会を聴きまくる。イッパイ勉強した。カウンターも買った。家の中が外と放射線数値が変わらずショックを受けた。拭いても何しても変わらない。だから窓も開けるようになった。

福島市KUさん：

福島市の小学校は5月6月にグラウンドの土を入れ替えた。郡山や伊達市より遅かった。外の運動はなくなった。6月下旬まで窓を閉め切り、今年の6月は暑い日が多くストレスでケンカのトラブルが増えたらしい。福島産の食べ物が一時期消えたが、最近は逆に「頑張ろう福島」のスローガンで、沢山売られている。

質問：いわきのOさんやNさんが、原発で町の景気が良くなった。暗い景気だけど。と言われてたが、福島市はどう？

KUさん：

福島市は避難者が多く、借家やホテルの空きがない状態。だけど借家やホテルではまともな生活とは言えない。

質問：震災以前ととくに変わったことは？

KUさん：

地震から、洗濯機や風呂の水を溜めるようになった。非常食なども。前の避難荷物もそのままいつでも持てるようにしている。洗濯物は中干しするしかない。

Kさん：

夏休みは新潟に避難をしてる。1ヶ月でも体の細胞が戻ると義母に教えてもらった。

質問：これから、どんなサポートを望まれますか？

みんな：

キャンプはぜひしてほしい。期間の長いところを選ぶよね。伊勢も長かったから来た。

質問：当初はもっと長くやろうとしてたけど、今回は無理だった。8泊9日で長くて疲れな  
か心配だったが良かったんですね。

飯舘Mさん：

冬休み、夏休み、春休みだけでも子どもは外へ出てほしい。

伊賀でNPO法人ひまわりの家という農林業を育てる拠点のような場所を住居に借りたが、管理人をすれば家賃なし。150坪の古民家。二階の2部屋を借りた。一階を自由に人びとに使ってもらう。キッチンもあり、部屋数も多い。外の土地も山などで自由に走り回れる。こういうのを沢山つくり、疎開に使ってはどうか？

質問：周りに震災でもっと困ってる方はいますか？

名取市Nさん：

仮設住宅に入ってる方とか。

飯舘Mさん：

仮設に野菜を送る支援をしてるが、どれだけ送っても足りない。一地域3000世帯くらいあるところも。米、調味料、小麦粉が足りない。他県のものがない。福島のものが売れないから、地元で売ろうとしている。チェルノブイリより食品の安全基準値がゆるい。知り合いの無農薬野菜を今まで売っていた方が、無農薬野菜農家の方にもう安全でないから売れないと、宣言した。辛いが安全なものしか売りたい信念を通したそうだ。国や東電は農家に保証をきちんとするべき。

質問：周りに農家の知り合いなどがいると思うが、食品の基準値をもっと下げようとして訴えてもいい？

いわきTさん：

自分はそれを訴えてきたからやってほしい。

質問：国の測定は信用出来ないと、広川隆一さんなどが、ホールボディーカウンターを買って、福島の方々に提供しようとしてたり、土地や食品測定をしようとしてる方もいますが、そういう支援も受けたいですか？

(うなづく方が数名)

飯舘Mさん：

飯舘で、記録ノートのようなものを作り配り始めた。何月何日はどこにいたかなど、なにか健康に害がでたときの証拠にするもの。

質問：移住など考えましたか？

名取市Nさん：

いろいろと考えたが、男の子に父親の存在は大きい。夫は会社員で土木設計をしている。地震で忙しくなった。

いわき T さん :

移住は考えてるけど、なかなか踏み切れない。夫のこと、母のこと、子の友だちと離れることや、いじめの心配。仕事はあるかとか、サポートはあるのか?なども不安。

福島市 K U さん : 理想は移住。現実はこのままかな。

郡山 K i さん : 生活費や転校など不安。

質問 : まわりの放射線への対応は?

名取市 N さん :

放射能に不安を持つ人と持たない人の差が大きい。自分のような人をノイローゼか、考えすぎと言われる方もいる。遠方に家族がいるなど、行くところがある人はパッと転校する。行くところない人は悩んでる。

いわき T さん :

学校は 40 人くらい転校したが、避難地域から入ってくるほうが多かった。

福島市 K U さん :

転校は 1 クラス 1、2 人。飯舘などから入ってきた方もある。学校によって汚染が違おうし、住んでるところで違う。

質問 : もっと支援について希望はありますか?

飯舘 M さん :

せっかくこんなに大勢でイベントをしたから、ネットワークを使って避難支援をしてほしい。職と住居のセットと地元の方や避難者同士など交流会があると避難しやすい。いきなり知らないところは不安だから、キャンプなどやりながらとか。

質問 : お試し移住のような。

飯舘 M さん : そうそう。

質問 : 3 . 1 1 からこれまでで言いたいことありますか?

飯舘 M さん :

震災のときに福島にガソリンが入らず、避難出来ない方々がいっぱいいた。道路はあるのに、200 km の違いで格段の違い。なんでなんだろうと思いつつ、避難の途中サービスエリアで爆発の映像を見た。その横でみんな普通に買い物をしている。愕然とした、すごく悲しかった。避難して、福島にガソリン、水、カウンターなど送ってあげたかったが、宅急便は入ってくれなかった。気持ちの温度差の違いが辛かった。

質問 : 福島の方もこうして会えば同じ人間。世界のフクシマと言っても同じ土地、同じ人びと。

飯舘 M さん :

いろいろなスタイルでいい。何か行動に移してほしい。自分も何かしたい。津波の被害の人びとも福島もどこもかもつながってほしい。ここにいると何もなかったようだけど、今も帰ってから忘れ

ないでほしい。

避難者も大変。すぐ帰れるように言われて、着のみ気のままで出た。今まで大切に築いてきたものをすべて失う。飯館の101歳のお爺さんが首をつって自殺した。計画非難地域になって、迷惑をかけたくないと。仕事がなくなり、酒やギャンブルに走った方もいる。飯館のお年寄りが、毎日泣いて、無意識に住めない家まで戻ってしまい、また泣きながら我に帰り避難場所へ帰ると言われていた。本当にかわいそうだ。お年寄りのためにも集落ごとの移住があるといい。

質問：国の検査や報道は？

飯館Mさん：

一時、ネットでカウンターがなくなった。福島で使えないようにされたのではないかと福島の報道は、心配ない。大丈夫というもの多いと聞く。6.11デモの報道もあまりなかったようだ。

質問：意見交換会など緊張感でピリピリすると聞いた。あとマスクをすると弱虫などという雰囲気だと。

飯館Mさん：白い目で。

郡山Kiさん：

キャンプに行くと言ったらビックリされた人もいる。何しに行くの？って感じで。

いわきTさん：

お母さん同士のお付き合いが変わった。放射能のことを心配すると、帰ってこなければ良かったのに。騒ぎ過ぎなどと言われる。でも気にする人はキャンプに行く。

質問：気にする人としらない人の割合は？

いわきTさん：

話さない方が多い。探りあいなので割合が分かりにくい。一人が話すと集まってくる。

質問：考えが一緒の方に会いたいですよね。

飯館Mさん：

三重の避難者ネットワークが8月に津・松阪・伊勢とある。もっとこういう企画があるといい。滋賀県に「滋賀県NPOきずなネットワーク」というのがある。子どもを見てもらいながら、いろいろなイベントや交流会に出れる。滋賀県の各NPOがきずなネットワークに登録して、入れ替わりイベントをする。毎回、違う団体と出会えて知り合いが増えるし、好きな活動と出やすい。三重県でも作ってほしい。

質問者：そろそろ時間だから、これで終わります。辛いことを思い出させてすみませんでした。

話してくれてありがとうございました。

このキャンプの後、あるお母さんとお子さん達は新潟に避難し、別の親子さんは北海道に一時避難をするそうです。みなさん、なんとか放射能から逃れたいとの思いで生きていらっしゃいます。その困苦にまた心が痛みました。同じ日本に住んで同じ言葉を話し、なんら伊勢に住んでいる私達と変わらないのに、東北に住んでいる(住んでいた)と言うだけで私達の想像を超えた苦勞と不安に耐えていらっしゃることを身をもって感じました。

## キャンプ参加者の感想（紙幅の都合上要約してあります）

□ キャンプ無事終了されましたこと心より感謝申し上げます。昨日は満面の笑みでいわき駅に降り立ち「楽しかった！行ってよかった！」と言っていました。ご飯を食べている時もいろんな方のお名前が出てきてお友達もいっぱいできたようでした。伊勢の皆様やお母さんたちと交流させて頂き安心して子供を預けることが出来ました。いろいろご迷惑をおかけしたと思いますが今はただただ感謝しております。ありがとうございました。福島の子供たちは、厳しい現実と共に暮らしていますし未来は様々にもっと厳しいかもしれません。でも、このような体験を通して強く、優しく育ててくれたらと思います。



8/3 整理箱作り



8/4 五十鈴川で川遊び

□ 本当にお世話になりました m(\_\_)m お陰様で娘は満面の笑顔で帰って来ました。とても楽しかったようでたくさん話しをしてくれました。達成感もあったのではないのでしょうか。皆様にはたくさんお世話とご心配をおかけしましたが素晴らしい夏休みを過ごさせて頂きました。お世話になった皆様どうぞくれぐれもよろしくお伝え下さい。ありがとうございました。

□ 何かしら大きな不幸に見舞われると、振り子のようにそれと同じくらいのいいことが身の上に起こるとか。もしかしてこの伊勢の Summer キャンプがそれだったのかなぁなんて思っています。脳裏に焼きついた様々な恐怖や不安。まるでそれらを払拭するかのようにつづけた8泊9日間。皆さんの献身的気な活動に支えられ、見守られて過ごした高麗広。ああ楽しかった。美味しかった。嬉しかった。本当にお世話になりました。福島駅についたとき、地元に戻った懐かしさの反面、遠い伊勢の皆さんにしばらくお会いできない寂しさに涙しました。いつかまた何かのご縁でお会いできることを心から願っております。



アァ、お腹がすいた！



8/6 鳥の鳴き声工作

体を被曝し続けている。子供達には何の罪もないのに...と、感情が高まり泣いてしまった日もありました。

でも、伊勢の人達の温かさと優しさに、たくさんの元気を頂きました。だから私は、これからも子供達の為に、より以上に頑張れます。少しでも子供達を空気の綺麗な場所に連れて行って、心と体のリフレッシュ。屋外活動や給食の問題、なかなか難しいけど、やれる事はやっていきます。体内から放射性物質を排出する食事の強化。などなど。

□ 書ききれない程のたくさんの感謝でいっぱいです。

伊勢の子供達との交流会の時、虫かごと虫取り網を持って来ていた息子と同じ年位の子を見て、この子達と私の子供達は何も変わらない、なのに、私の子供達や福島県の子供達は内部被曝している。今この瞬間も体内に入った放射性物質は、小さな



8/8 流しそうめん



8/8 クルクルレインボウ作り

□ ネットで伊勢サマーキャンプのキャンセル募集を見つけ飛びつき、宮城県だから...と辞退しようと思いましたが、お言葉に甘えて、参加を決めました。福島の参加者の方々との新幹線でのドキドキ待ち合わせから始まり、高麗広へ向かう道、どこぞへ連れて行かれるのだろう...無事帰仙出来るだろうか?と不安になりました。

1日が過ぎ、その不安もどこかへ飛んで行く勢いのもりだ

くさんのイベント。お伊勢参り、二見水族館、ワークショップ、林業体験、流しソーメン、花火大会、遊覧船、鳥羽水族館、夜はライブ。初体験の連続でイベント満喫でした\^o^/池添さんをはじめ、お料理を作ってくださった方々のあったかなお料理で心も体も癒されました。



8/8 子ども交流会



8/9 鳥羽湾クルーズ

ガチガチに固まった体をマッサージしてほぐして頂いてありがとうございました。日々の原発の疲れも嘘のように消え、子供の目がキラキラと輝きを取り戻し、元気の源を頂きました！頑張ります。伊勢が大好きです！また必ず伊勢へ顔だしたいです。みなさんに会いに行きます。

杜の都仙台にも遊びにいらしてくださいね！

その時を楽しみに

□ 家に着いてから数分後、娘が、「高麗広に帰りたい」と、大泣きし始めました。楽しかったキャンプ生活、仲良くなったお友達や、可愛がって頂いたスタッフの方たちとの別れが、彼女にとって、余程辛かったのでしょう。息子は、また行くから大丈夫と言って、楽しかった出来事を主人と義母に話していました。子供達と同様、私にとっても伊勢での9日間は、とても楽しく、逃げたいくらいの辛い現実を忘れさせてくれる、素敵な日々でした。離れるのが寂しくて寂しくて泣いてしまうなんて、大人になってから、なかなかそれだけの出会いなんてないなか、皆さんと出会えた事は本当に忘れられない、ずっと続いていきたい大切な出会いとなりました。



8/9 鳥羽水族館見学

子供達にたくさんの楽しい思い出を作って下さり、ありがとうございました。体内に入った放射性物質を出す食事を毎日食べさせて下さり、ありがとうございました。いわきでは出来ない川遊びに連れて行って下さり、ありがとうございました。息子と一緒に風呂に入って下さり、ありがとうございました。マスクをしないで走り回れる場所を、ありがとうございました。子供達の為にたくさんの事を考えて下さり、ありがとうございました。



8/9 さよならパーティ

□ 9月の末頃、小学4年生の音楽祭があります。それまでに屋外活動や給食の問題が何も前進しない時は、本格的にここを離れる事を考えて行かなければいけないと思っています。

## スタッフの想い

時芽輝農場 池添友一

被災地の方々や福島の子供たちに何か自分に出来ることは無いか思いながら何も出来ずに何となくモヤモヤと毎日を送っている時にサマーキャンプ伊勢のことを聞き、直感で「これなら自分にでもお手伝い出来る」とビビッときてすぐに参加表明させて頂きました。

顔合わせの当初はぎこちなく原発事故や放射性物質などのことに触れないように気を使いすぎているような感じがありましたが、2日目ぐらいからは徐々に心が通い合うようになりました。



福島の方達の方から原発事故に関する不安や生活(食事)状況も話して下さるようになり、毎日夜遅くまでおしゃべりできて楽しかったです。たくさんの差し入れの安全な

野菜を素敵なスタッフとともに料理が出来て幸せな時間を頂戴しました。

洗い物や食器の片付けの合間の他愛のない話や冗談のいい合いに笑いが生まれ、子供たちもすっかりと緊張もほどけ大きなひとつの家族なったのを感じました。安心して外で遊べて、安全な食事を食べれる。そんなあたりまえの繰り返しがそれだけ幸せなことが改めて身に染みしました。

今回のキャンプはたくさんの温かい心がそのまま現実になりました。

出会えた福島の方々、スタッフの皆さんに「ありがとう」を伝えたいです。

自然の中での命と命のあるがままのふれ合いキャンプをまたしましょう。



来田尚親

1日目の夜、あるお母さんが言った言葉が印象的でした。「放射能の心配をせず子どもたちに食事をさせてあげられるのが、一番うれしい。」この話を聞いて、胸が締め付けられるようでした。

キャンプ3日目、伊勢参りの後、伊勢うどんを食べました。子どもたちは、真っ黒なたれがうどんにからまっている伊勢うどんを見て、とっでもびっくりしていました。コップの水にうどんを入れて、たれをとって食べていた子もいました。五十鈴川の烏帽子岩の辺りで水泳をしました。「今年、泳ぐの初めて」と言って、烏帽子岩から気持ちよさそうに飛び込んでいた子がいました。みんな、いい顔で楽しんでいました。その間、お母さんたちは、おはらい街、おかげ横丁で買い物。お母さんたちの顔も笑顔いっぱいでした。伊勢に来て、男湯デビューを果たしたも、この日は2回目。銭湯でも子どもたちは成長しました。



上野正美

3月11日に起きた地震、津波、そして原発事故・・・毎日、テレビの福島第一原発の映像にくぎ付けになっていたのを思い出します。放射能は目に見えませんが、空気中に飛んで被曝の元となり、特に子どもたちに影響が出やすいなんて、本当につらい話です。

私にも何かできないかと思っていた時、ミキさんのこの企画ができ、ぜひお手伝いがしたいと思いました。

キャンプ中に2回、日赤の救急外来に子どもたちを連れて行きましたが、子どものレントゲン撮影をどうしても受けさせられないと、泣いたお母さんや、地元の子どもたちと、流しそうめんをしたとき、外で何も考えずに遊べるこの子どもたちがうらやましいと目を赤くしているお母さんもいました。



楽しい事で私が一番心に残っているのは、あの1台のピアノです。たくさん子どもたちがピアノに集まって来ていました。馬のかぶりものをかぶらされて、ヘイジュードを弾いたときは、我ながらよくやるよと思いました。子どもたちの楽しそうな笑顔を見たら自分もしあわせな気持ちになっていました。



終わってから、いろんな人から意見も聞きました。ごくろさまの他に、一部の人たちだけ助けていいのなんていうのもありました。私はいいと思います。私にできることをそして企画した側も来てくれた福島の人たちもところが通じて、本当にやってよかったと思えるのだから。

食事も、ライブも、水族館も、伊勢うどんも、犬のトリーも、花火も、烏帽子岩も、セミも、思い出だらけでここには描ききれません。悲しいのは今も放射能は出続け、なにも解決していないという事実です。次に私にできることは何かを考えます。重い文章になってしまいました。すみません。

柴原洋一

これって何を書くんやったっけ？自分で提案しといて、よう言うわってとこやなあ。

ぼく、期間中、ノーニュークスアジアフォーラムとかで広島・祝島その他に出かけとって、準備段階しか参加してなかったんで、大したこと書けへんけど。千ちゃん、ありがとう。連絡不行き届きで、迷惑かけてしもた。ごめん。

でもほんとに、ありがとう。水野さん、ありがとう。あんまりおおっぴらにせんてことで、紙の上ではあんまり触れてないけど、心は感謝してます。あと忘れられんのは、淳子さんの叫び声やな。7月18日の天王寺区民センター。広瀬さんの講演会場で、「子どもたちに放射能のない夏休みを！」ってカンパを募らせてもろた（池島さん、許可、ありがとう！）。いきなり耳元で目一杯の声で叫びだすんやもん、びっくりしたわ。いろんな思いがこもって、恵奈ちゃんを泣かせた。ほとんど参加してへんけど、気持ちはいっぱい動いた。



三浦美恵

食がこんなにも人を癒すものとは！すべての人が笑顔で過ごせる世の中を心より望みます。

坂本照子

60万に近い経費をどうして集めるか...もし集まらなかったら・・・”意気揚々と企画を話し合っていた空気が一瞬トーンダウン！重苦しい沈黙を破って「集まるさ、集めようや...・ナショナルトトラストで1億円だって集められたんだから」誰かの声でみんな我に返った。“この呼びかけが、一人でも多くの人たちに災害を身近にとらえてもらえるんだから・・・！”と。以来、それぞれの活動と成果がメール上を飛び交う・・・。予定以上の財源のみならず、食事の差し入れ、見学場所の受け入れ、交通費、移動手段の支援...あらゆる支援が方々から寄せられ、つかの間とはいえ、子どもたちに安心の夏休みを提供することが出来た。スタッフの活動と、熱い市民の心にカンパーイ！！





## 間宮正博 キャンプを終えて

三月のあの日から福島に東北に心を傾けていたつもりでいました。ですが高麗広でのキャンプに参加し、あの子達と共に過ごしているうちに、じぶんは想像力に欠け、これまでなにも見ていなかったような気がしてきたのでした。キャンプが始まる前から「子ども達は帰っていく」ことを知っていたはずでした。しかしほんとうはその意味をよくわかっていなかったのだと今は思います。ある晩テントまでの道すがら雨が降ってきたとき、

ふたりの子どもに傘を差し出しました。地元の子は「ありがとう～」と受け取りましたが、福島市からきた子は「ここの雨はぬれてもいいんだー」とあかるく言うのでした。高麗広の森をクルマで走っていると子ども達に「降ろしてー。おろせー。とめろー。走らせろー！」と何度も言われました。でも「危ないから駄目」と走らせてあげませんでした。ほんの少ししか走らせてあげられませんでした。走ること、雨にぬれること、そういう当たり前が当たり前でない場所がある。

この数ヶ月さんざん読んだり聞いたりしてきたはずですが、あの子達に会うまでわかっていなかったことがたくさんありました。みたすの湯で、お風呂あがりにアイスを食べながら、女の子がお菓子を取ろうと UFO キャッチャーに興じる様子は、ほんと子どものようでした。この子達は正真正銘ただの子どもなんだと改めて感じたのでした。



ここに来るまでの毎日は、どんなだったか、何を見てきたのか、子ども達の口から聞くことはありませんでした。キャンプのあいだは、ひたすら遊びつづけたのかもしれませんが。あの子達は凶暴でわがままで口がわるくギャーギャーうるさかった。ですが高麗広の道を走りながらふと横をみたとき、そこにあった横顔や、朝ひとりピアノを弾いている後ろ姿に、なにかを見たように思います。それはなんなのか...うまく言い表すことはできません。キャンプは終わり、あの子達は帰ってゆきました。福島...郡山...いわき...名取...南相馬...よく知らなかったそれぞれの街が今となって私の中で重要になりました。それまでの自分の「伊勢は大丈夫だ」という自分勝手さに気づけたキャンプでもありました。ご協力どうもありがとうございました。



## 平本朝子

私は、日曜日と夜ばかりの参加で、ほんの少ししか関われませんでした。本当にヘルシーでおいしい食事と、本当にアットホームな雰囲気、みなさんの愛のこもった素敵なサマーキャンプだったと思いました。いろいろな困難や苦勞を一つひとつ乗り越えたうえでの素敵なキャンプだったのです。私はのほほんと、お皿を洗いながら、お母さんたちとのつかの間のおしゃべりを楽しむことができました。

支援のお金も、コツコツと、一人ひとりの思いが集まり、驚きました。支援を集める活動も福島のこと、放射能のことを多くの人に考えてもらう活動になったんだなあ、と思いました。

キャンプにあまり参加できなかったですが、お母さんたちからのメール、インタビューの報告などを読み、お顔を思い出しながら、こんな思いをしてきたんだなあ、と知ることができました。いろいろ本当にありがとうございました。お疲れ様でした。



西根 正子

夏休み、被災地の子供たちに三重に来てもらって、少しの時間であっても、余分な心配のない環境の中で過ごしてほしい。親御さんにも一時の休息の時間をすごしていただければ・・・

被害の甚大さ深刻さに圧倒されつつ、それでも『自分ができることは何だろう。』そう考えるうち、こんな思いを持つようになりました。そこへ、今回のキャンプ企画立ち上げへのお誘いの電話が・・・。即答で第1回の会議に臨み、数日後、協力をお願いするため商工会議所に相談に行こうかなと思っていると、向こうから別件で職場へおみえになって、渡りに船と協力をお願いすると、その日のうちに会議で検討いただき、翌朝にはそこからつながって、別口からも全面協力するとのお電話が・・・と、信じられないほどに話がトントンと進んでいきました。



こんなふうにも全面協力いただいた河口外科院長様と Hill's Mark の三重野様を通じて、橋会長様はじめ高柳商店街の皆様、かんひちや薬局様、山口製麺様、北尾印刷様にご協力いただきました。お弁当を提供して下さった八百正様、二富士様、魚勘様、夫婦岩パラダイス様にはシーパラダイスにご招待いただきました。河口院長ご自身には寝具の提供、鳥羽湾遊覧船の他、期間中の医療に関して心強い支えをいただきました。ガールスカウト様差し入れのポトフにゼリー、おいしくいただきました。Hill's Mark 様には毎日の山のような洗濯を引き受けていただきましたが、実際には三重野様の奥様の心づくしであったと後でお聞きしました。二光堂様には書入れ時に大勢で押し掛け、伊勢うどんをご提供いただきました。

『自分ができることは何だろう。』そう思っている方がたくさんみえて、だからこそ、こんなにもあざやかに広がっていった。今回のキャンプは、代表のミキさん、えなさんをはじめ、皆様の想いの結晶なのだと感じています。

キャンプに参加されたお母様方からのメッセージを読ませていただいて、その悲しみ、苦しみの大きさ深さに、自分の認識の甘さを反省しつつも、この想いを受け止めていただけたことに喜びと希望を感じています。たくさんのボランティアの方々との清々しい出会いもありました。今回のキャンプに関わらせていただけたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

林 恵奈

この企画が始まり、フクシマをただ見つめるしかない無力感に満ちた悲しい日々はなくなった。毎日、あらゆる方々から支援のお申し出を頂き、喜び感動の連続だった。キャンプ中は体力も知力も限界でフラフラだったが、毎日幸せだった。放射能から子どもたちを守りたい。同じ気持ちの方々とお過ごせたから幸せだった。

今は、子どもたちとお母さんたちに宿題をいっぱいもらった気分です。

夏休みの宿題が終わらない自分の子ども時代そのままだ(笑)。



横山 公子

お互いに名も知らず、出身地も年齢もまちまちな人の集まりでも、同じおもいをもって、同じ目標に向かって動き出すと、予想以上の見事な力の輪ができるということを実感しました。そしてその輪の中で若い人たちと共に、貴重な汗を流したこの経験は、これからの私の生きる力につながると思います。ありがとう。

## 収支内訳・支援内訳

皆さんからいただきましたご支援ご寄付の内訳は以下のとおりです。会計担当の林、牛江、平本より報告させていただきます。

サマーキャンプ伊勢 2011

9 / 8 現在

内 訳	収 入	支 出	残 高	備 考
寄付	1,167,652		1,167,652	
交通費		157,430	1,010,222	駐車料金、バス、有料道路など
雑費		166,316	843,906	イベント、入浴、ボランティア保険など
消耗品費		61,845	782,061	日用品、文房具、蛍光灯など
食費		230,390	551,671	食事、食材など
飲料費		23,880	527,791	ジュース、お茶、氷、お酒など
通信費		41,670	486,121	電話、宅配など
会議費		4,770	481,351	会議 11 回分
紙、印刷代		11,190	470,161	コピー用紙、コピー代
使途不明金		3,009	467,152	
	1,167,652	700,500		

福島・伊勢間の切符は、現物で支援をいただきました。その他、公民館使用料、布団の使用料、クリーニング、伊勢志摩めぐりのバス代、食材提供などなど、さまざまな支援をいただき、当初の予算よりもはるかに少なく、キャンプを終えることが出来ました。

剰余金は、高濃度放射能汚染地域の子どもの支援に使わせていただきます。内容につきましては、今後、検討してまいります。ありがとうございました。

なお、詳細につきましては、サマーキャンプ伊勢 2011 のホームページをご覧ください。

## サマーキャンプ実行委員と事前登録ボランティア（敬称略）

たくさんの方々がボランティアに参加していただきましてありがとうございました。

（ボランティア保険に加入された方のみ記載させていただきました。）

加藤聡海	岡野百合	立花由美子	八木 昭	民部恒子	谷久美子
加藤 茜	河西洋子	富山喜子	井上雅子	三浦美恵	間宮正博
池添友一	北村洋美	中村ミキ	松井高純	岡谷佳澄	植田文枝
横山公子	石岡イツ	来田尚親	西根正子	宮谷久美子	池山英吾
谷 真人	上野正美	口野江美	林 恵奈	平島妙子	池山加奈子
森山忠文	牛江康子	坂本照子	浜口良太	谷 陽子	加藤 保
岡林より子	梅田訓子	柴原洋一	平本朝子	市橋たね子	若林新平
黒宮勇子					

計 37 名



## ご支援頂きました企業/個人様の一覧 (敬称略)

伊勢ロータリークラブ	赤福	伊勢国際観光	(有)魚勘	喜心
いせ市民活動センター	海の博物館	高麗広地区の皆様	河崎蔵	角屋
伊勢パールセンター	河口外科	鳥羽水族館	八百正	錦水湯
伊勢市視覚障害者福祉会	ぎゅーとら	二見シーパラダイス	(資)二富士	カトリ
広河隆一児玉克哉講演会	岩戸屋	島田工務店	進富座	
広河隆一写真展会場	山口製麺	かんひちや薬局	一曜菜園	
おかげ横丁おかげ座	ミタスの湯	Peace Friend Ship	新婦人	
中川歯科様(伊勢市神久)	ウバシクマ	緑と海の合唱団	二光堂	
山口晃税理士事務所	chakra	広瀬隆講演会	北尾印刷	
吉川建設株式会社	松本薬局	五十鈴中学校有志	星陽建設	
三重ラフター(笑い)ヨガクラブ	西堀ファーム	沼木中学校一同	高柳商店街	
宮川中学校職員一同	森芳商店	城田小学校有志	浜郷小学校職員有志	
厚生小学校職員有志	(有)ヒルズマーク	厚生中学校有志	佐八小学校職員有志	
上野小学校職員有志	中島小学校有志	御園小職員有志	御園中学校職員有志	
松阪チャリティコンサート実行委員会		二見小学校有志	倉田山中学校職員有志	
社)ガールスカウト日本連盟三重県支部		修道小学校有志	ヒメシャラ	
合同会社シャンバラお客様一同		北浜小学校有志	かとうクリニック	
三重みなみ子どもネットワーク		豊浜西小学校一同	ベルレK	
伊勢市商店街連合会青年部		豊浜東小学校職員	シャンバラ募金箱	

市橋たね子 中出やす子 秋山治孝 岡谷佳澄 谷しげ子 西村文代 阿部 暖 谷 真人 山村ふさ  
池村真由美 中村志津子 池山琢磨 奥田欽哉 谷真由子 西村とめ 東 文子 高山 学 大東寿恵  
牛江真由子 中曽根政子 池村助之 尾畑潤子 田中伸一 西岡博子 東 泰志 辻 幸弘 土生幸代  
上田紀代子 長野佐代子 井上雅子 加藤聡海 地主朋子 野口宗明 岡 秀晃 林 知人 中村芳江  
浦井由紀恵 西村みゑ子 伊藤孝之 河野英子 築山明子 橋本正和 加藤 茜 林 祖母 渡辺龍子  
奥野三智子 西村美智子 伊藤一幸 加藤千晶 辻村美恵 服部朱美 黒木 京 畑 純子 脇田裕子  
奥野やす子 藤田麻友美 岩本昌也 北村洋美 辻原和子 藤原清文 榊原 康 登 敏子 奥田美幸  
木幡麻里子 三橋恵美子 岩崎晋作 喜田健児 天白信子 細沼晶子 澤村 晃 廣 達也 村山敬子  
河原田篤子 宮西いずみ 池山孝子 倉井照子 富山喜子 森部篤史 西井 清 藤原 厚 鈴木健一  
加藤みきお 向原由美子 浮田隆弘 栗田淳子 友常真造 森下信子 林真知子 森 雅英 中村美紀  
小切間千栄 森野代美子 植田文枝 毛藤訓子 東端志野 松本潤子 坂本照子 山本 勉 徳王信子  
澤村二三子 森本かおり 上田有紀 小嶋理奈 富田正史 三玉宣晃 西根正子 Marika 林 昇  
坂口みづほ 山村佳寿美 江崎貴久 沢村節子 中津守生 民部恒子 野村繁幸 こずえ 尾崎  
佐藤恵美子 芝田ゆかり 小川和弘 須藤美穂 中村鏡子 溝口恵利 野呂公子 ルーク 岡山政広  
鈴木裕美子 錦織厚史他 森山忠文 鈴木光代 中村進一 若宮一哉 藤井淳一 海 響 松本和代  
クラタナオコ ツジカズコ セイリキチハル ナカムラモトヒコ タケウチノリアキ ヤマモトチヒロ  
せんざきあやの なかいはんえもん モリタフミヨ 西山マエイコ ピュアレ岡林より子

匿名希望 28名様

この他にも、たくさんの方々にご支援をいただきました。ありがとうございました。

## お 礼 と ご 挨拶

ほんとうは今後の計画をみなさんにお知らせしてこの報告書をまとめたいと思っていたのですが、間に合いませんでした。一部の実行委員からウインターキャンプの案件やもっと長期に渡るキャンプなどの意見も出ておりましたが、マダニ感染の事件のこともあり、まだ今後のことを決めるのには時期が尚早な感がありました。やっと今、その段階に来たと言えます。今回のキャンプで出た余剰金の使い道などを含めて今後の方向性を近いうちに決めたいと考えています。

長々とお読みくださってありがとうございました。本当にみなさんのご支援の量は予想を遥かに超えるものでした。ひとりひとりのみなさんの顔やお名前を思い浮かべて、ありがとうございます、という気持ちで一杯です。NPO 法人でもなく実績も全くない私どもの様な素人ボランティアの集まりを信用して大切なお金を寄付あるいはさまざまなサービスをご提供していただきまして、おかげさまで無事、とは言いきれませんが、キャンプを終わらせていただき、ひとまずは報告をまとめることができました。偽らず飾らず正直に主要なことの報告をさせていただいたつもりでございます。東北では私たちの想像以上に沢山の方々が困難な生活に直面されていらっしゃることを、福島のみなさんに教えていただきました。このキャンプが一過性のイベントに終わらずに何らかの形で、東北支援の灯火を絶やすことなく、子供達の命を守ることが一番大切だという思いをより多くの方が共有して、支援を継続してゆけますよう行動してまいりたいと思います。またその思いをみなさんと共有できることを心から願います。震災にあわれたすべてのみなさまが再び笑顔で日を過ごせますよう、同時に亡くなられた方のご冥福を心より深くお祈りいたします。

サマーキャンプ伊勢 2011 実行委員会代表 中村ミキ



サマーキャンプ伊勢 2011 実行委員会